

②教育研究業績書

令和8年4月30日 氏名 室井 佑美 印			
認定を受けようとする課程における担当授業科目			
領域の専門的事項及び保育内容の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育に関する科目
・保育内容人間関係の指導法（単独）		保育・教育相談の理論と方法（オムニバス）	
教育上の能力に関する事項			
事項	年月	概要	
1 教育方法の実践例 ・ ・ ・	平成23年8月 ～現在に至る 平成24年11月 ～現在に至る 平成25年10月 平成26年10月 平成27.28.29 年7月 令和元.3年7月 平成27年11月 平成29年11月 令和元年11月 平成27年8月 平成29年8月 平成28年11月 平成29年10月 令和3年11月 ～6年11月 令和5年10月	保育ボランティア活動を学生の授業外における学習効果促進のため、保育・福祉現場を経験し保育の実際を学ぶ場として企画・指導した。 保育実習・施設実習・教育実習での学びを主体的且つ対話的に1・2年生が深め合えるような取り組みとして全学生を対象に実習報告会を開催、企画・指導した。 年間行事である運動会の企画・運営手法を学ぶため、アクティブラーニングの手法を用いて、計画の立案、子どもへの指導方法等、配慮点の理解が深まる指導を行った。 年中行事である七夕の企画・運営手法を学ぶため、アクティブラーニングの手法を用いて指導を行う。計画立案、組織運営、予算管理等の学習に加え、実施後ICTを活用し評価と改善への理解が深まるよう指導を行った。 鳩山町立鳩山幼稚園等主催の子育て企画「はとやま子育てフェスティバル」の運営協力をした。行事運営、計画立案を視野に入れアクティブラーニングの手法を用いて指導を行い、実施後はICTを活用して子どもとの触れ合う中で遊びの展開に対する評価と改善を深めるよう指導した。 学生に対して埼玉県こども動物自然公園での小動物ふれあいコーナーで動物飼育体験学習の企画運営をした。飼育体験や子どもへの指導を実践するための企画・運営及び学生指導をした。 鳩山町公立幼稚園及び東松山市私立認定こども園園外学習の企画・運営をした。学内の人的・物的環境を用いた園外学習の企画・運営した。学生の企画運営及び計画立案、当日の子どもに対する保育の指導をした。 地域の保育園/幼稚園招待行事「Yamamura Juhla Juhla」の全体運営・企画をした。行事運営、計画立案を視野に入れアクティブラーニングの手法を用いて指導を行い、実施後はICTを活用して子どもとの触れ合う中で遊びの展開に対する評価と改善を深めるよう指導した。 東松山市子育てネットワークと協働し、「ふたごちゃんあ	

様式第4号（教員個人に関する書類）

	<p>令和6年6.7月</p> <p>令和7年1月</p> <p>令和7年11月</p>	<p>つまれ！」の企画を学生を指導して運営を行った。</p> <p>多様な保育の場を学ぶため、東松山市内にある小児科クリニックと病児保育室、外国籍の乳幼児が多数在籍する坂戸市内の公立保育園を訪問し、学内発表をした。</p> <p>富士見市私立認定こども園の年長児を大学へ招待し、屋外遊びの企画を学生を指導し、運営を行った。</p> <p>川越市私立小規模保育園の子どもを大学へ招待し、屋外遊びの企画を学生指導し、運営を行った。</p>
2 作成した教科書・教材	<p>平成25年12月</p> <p>平成27年3月 令和2年3月 ～現在に至る</p> <p>令和6年3月</p> <p>令和6年5月</p>	<p>学内での保育士養成の実習体制が円滑に行われるよう「保育実習の手引き」を作成した。</p> <p>学内での教育実習及び保育実習の実習体制が円滑に行われるように「実習ガイドブック」を作成し、年度に応じて改定を行った。</p> <p>「実習ガイドブック」の全面改訂を行い、学内での実習指導及び学外へ実習指導体制が周知できるようなガイドを作成した。</p> <p>「保育実習」実習日誌の改訂を行い、記録様式について多様なバリエーションを作成して、段階を踏んで実習日誌の記載ができるように作成した。</p>
3 教育上の能力に関する 大学等の評価	<p>平成24年4月 ～26年3月</p> <p>令和7年3月</p> <p>平成31年4月 ～令和5年3月 令和5年4月～ 現在に至る</p>	<p>福祉系資格を複数有する大学での助教、保育系専門学校での非常勤講師の経験から実習委員会副委員長に就任する。実習体制、実習システムの安定した構築を図った。</p> <p>学生による授業評価にて5段階評価で保育内容人間関係の指導法(4.60)、保育原理(4.33)、保育内容人間関係(4.51)の評価を受けた。</p> <p>教務・FD委員長を務め、学内教務の運営・審議及びFDにおける企画立案を行っている。</p> <p>実習委員長を務め、保育士資格、幼稚園教諭免許に係る学生指導及び実習計画について企画立案を行っている。</p>
4 実務の経験を有する者 についての特記事項	<p>平成27年6月</p> <p>平成27年10月 令和元年6月</p> <p>平成27年12月 平成28年11月 平成28年9月 平成29年9月 令和元年9月</p> <p>平成28年7月</p> <p>平成29年3月 令和元年12月 令和2年9月 令和4年10月</p>	<p>羽生第一高校3年生を対象に大学講義体験授業として、「子どもの発達と支援」の講師を務めた。</p> <p>鳩山高校1年生を対象に職業説明として、「保育・福祉関係職について」の講師を務めた。2年生に「高等教育の学び～幼児教育/保育/福祉体験～」の講師を務めた。</p> <p>川越総合高校3年生を対象に大学講義体験授業として、「児童文化と絵本の読み聞かせ」の講師を務めた。</p> <p>寄居城北高校3年生を対象に大学講義体験授業として、「児童文化とパネルシアター」の講師を務めた。</p> <p>小学校4～6年生を対象に鳩山町及び鳩山町教育委員会主催の「子ども大学はとやま」にて講師を務めた。</p> <p>寄居城北高校2年生を対象に職業説明として、「保育・幼児教育について」の講師を務めた。</p> <p>飯能高校3年生を対象に「エプロンシアターの作り方と演じ方」をテーマに講師を務めた。</p>

様式第4号（教員個人に関する書類）

	<p>令和5年9月 令和7年9月 令和2年12月 令和3年2月 令和7年10月</p>	<p>山村国際高校1年生を対象に職業説明として、「保育・幼児教育の仕事について」をテーマに講師を務めた。 鶴ヶ島清風高校2.3年生を対象に「子どもの発達と遊び」に関して講師を務めた。 滑川総合高校3年生を対象に「パネルシアターの演じ方と子どもとの関わり方」に関する講師を務めた。</p>
5 その他	<p>平成23年4月～26年3月 平成23年4月～26年3月</p>	<p>学内ボランティアコーディネーターとして地域の施設やボランティアセンターからボランティア依頼に対して学内での調整を行った。年間に約80件程のボランティア依頼があり、約120人の学生ボランティア派遣を調整した。 学内の学生組織である「学生リーダー」の担当教員として学生企画・運営行事に対する指導を行った。東葛地区福祉系事業所との協働で学園祭での物品販売や学生交流を企画した。さらに東北地区の福祉系事業所の物品販売、募金を行い、東日本大震災東北復興支援への寄付を行った。</p>
職務上の能力に関する事項		
1 資格, 免許	<p>平成21年1月 平成17年4月 平成18年1月 平成22年9月 平成22年12月 平成25年2月 令和4年8月</p>	<p>保育士 社会福祉士 医療事務管理士 社会福祉士実習担当教員講習会修了 社会福祉士演習担当教員講習会修了 ダウン症赤ちゃん体操指導員 実習指導者認定講習修了</p>
2 学校現場等での実務経験	2年	<p>港区障害保健福祉センターこども療育事業 保育士 (平成17年4月～18年2月) 浅草病院医事課医療連携相談室 社会福祉士 (平成18年2月～19年3月)</p>
3 実務の経験を有する者についての特記事項	<p>平成23年1月 平成24年1月 平成25年8月 平成26年7月 27年12月, 28年8月, 29年4月, 30年4月, 令和元年10月, 5年3月, 6年3月, 7年2月 平成28年8月 平成29年3月 平成29年8月 平成29年12月</p>	<p>済生会川口乳児院主催の研修講師を務めた。 茨城県児童館連絡協議会主催の第3回児童館等職員研修会の講師を務めた。 順天堂大学付属順天堂医院あそびのボランティアグループへ研修を実施し講師を務めた。 鳩山町つどいの広場事業主催の子育て教養講座講師を務めた。 学校法人ふじま幼稚園主催の研修講師（テーマ：「現在の幼児教育行政」、「新幼稚園教育要領改訂のポイント」、「新入職員研修Ⅰ」「新入職員研修Ⅱ」）を務めた。</p>

様式第4号（教員個人に関する書類）

	平成 29 年 8 月	鳩山町社会福祉協議会主催の保育ボランティア養成講座にて講師を務めた。			
4 その他		特記事項なし			
担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
保育内容人間関係の指導法	(著書) 1 保育者養成シリーズ「相談援助」	共著	平成 24 年 3 月	一藝社(13 頁)	第 4 章「保育とソーシャルワーク」を担当執筆した。法的根拠、 <u>保育所保育指針に基づいて、保育における相談援助、保育士の任務と相談援助、援助に関わる保育士の役割を概説した。</u> (pp:50~62) 著者：高玉和子、和田上貴明、安藤みゆき、伊藤博、今井慶宗、太田敬子、大野地平、笹志津、潮谷光人、白澤宏明、武田英樹、谷口卓、中村卓治、日高洋子、松井圭三、室井佑美、森合真一
	2 保育を学ぶシリーズ①「保育内容・人間関係」	共著	平成 27 年 4 月 平成 31 年 4 月	学図書出版(12 頁)	第 7 章を担当執筆及び改訂版執筆をした。 <u>領域の相互関係と人間関係との位置付けを述べると共に、事例を交えて、様々な保育場面で子どもの人と関わる上での育ちがどのように見られるかを述べた。</u> (pp:82~93) 著者：横山文樹、駒井美智子、小倉庸寛、吉田亜矢、寒河江芳枝、石川由里子、小林保子、室井佑美
	3 〈領域〉人間関係ワークブック	共著	平成 29 年 10 月	萌文書林(30 頁)	<u>領域「人間関係」のねらい及び内容における知識、事例における子どもの実態を背景に執筆した。子どもの人間関係の育ちを実感できるよう、主体的で協同的な学びが得られる課題や体験的な演習課題を設定した。</u> (pp:22~23, 37~41, 47~49, 58~59, 66, 72~73, 78~79, 85~87, 93, 99~100, 113, 119, 126~127, 134~136) 著者：室井佑美、田村美由紀
	4 子育て支援「子どもが育つ」をともに支える	共著	令和 2 年 4 月 令和 7 年 3 月(改訂版)	北樹出版(14 頁)	第 4 章・第 5 章を執筆した。 <u>子どもや保護者が会おう多様な他者の存在、多様な他者とのかかわる「機会」や「場」と保育者が専門性を発揮する機会や場の提供について述べた。</u> (pp:16~23)また、保育士として子育て支援を行うための <u>自己理解及び他者理解について概説と演習課題を設定した。</u> (pp:24~29) 著者：原信夫、松倉佳子、佐藤ちひろ、佐藤恵、八田清果、佐藤純子、室井佑美、守巧、石本真紀、高橋雅人、丸橋亮子
	5 子ども家庭支援論	共著	令和 2 年 4 月(初版)	北樹出版(20 頁)	第 6 章・第 8 章を執筆した。 <u>保育士による地域の資源の活用と自治体・関係</u>

様式第4号（教員個人に関する書類）

	<p>6 〈領域〉環境ワークブック-基礎理解と指導法-</p>	<p>共著</p>	<p>令和6年3月(改訂版) 令和2年8月</p>	<p>萌文書林 (33頁)</p>	<p>機関との連携・協力について保育士がどのような連携・協力を行っているのか、実際に踏まえながら述べた。(pp: 58~66)また、保育所等を利用する子どもの家庭への支援について、子育てを行う保護者の負担や悩み、<u>保育所等での多様な支援の展開と関係機関との連携</u>について述べた。(pp: 75~85) 著者:原信夫、松倉佳子、佐藤ちひろ、佐藤純子、室井佑美、佐藤恵、高橋雅人、田中賀奈子 第3章:<u>人的環境と関わり-保育者の役割</u>(pp: 40~49)、第10章:<u>文化や伝統、行事などに親しむ</u>(pp: 128~138) について担当執筆した。<u>子どもを取り巻く様々な環境に対して、出会う人的環境を説明した。また、子どもを取り巻く文化や伝統、行事などの具体例から、領域「環境」との関連性、保育の場における年中行事と子どもの中で育つものを述べた。</u>さらに、環境のねらいと内容に対する子どもの育ちを実感できるよう、主体的で協同的な学びが得られる課題や体験的な演習課題を設定した。(pp:23~24, 36~39, 50~51, 106~107, 118~119, 126~127, 139~141, 161~163, 181~182) 著者:佐藤純子、矢治夕起、田村美由紀、室井佑美、村山大樹、溝口義朗 「障害に関係する児童福祉施設など」(pp:22)、「児童相談所の役割」(pp:84)について執筆した。<u>障害児への支援に向けて保育者が連携するだろろう施設の機能や働く専門職について概説した。</u> 著者:太田俊己、高倉誠一、沖本悠生、広瀬由紀、田村光子、太田顕子、長澤真史、甲賀崇史、杉田律子、相磯友子、白馬智美、佐藤慎二、相沢和恵、笠木奈緒子、城倉登代子、月澤未来、鶴巻直子、西川和仁、室井佑美 第4章:<u>活動・行事をどう捉え、どう実践するか</u>、2節:<u>行事をどう捉え、どう実践するか</u>について執筆した。園における行事の特徴や役割を概説し、指導計画への位置付けや五領域を踏まえた行事の捉え方、ニューノーマルな社会環境における行事の展開方法などについて、要領や指針を提示しながら説明し、事例を挙げた上で具体的方策等を</p>
	<p>7 子どもと社会の未来を拓く障害児保育-インクルーシブな保育に向けて-</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年3月</p>	<p>青踏社 (2頁)</p>	
	<p>8 新・保育内容総論-保育って、おもしろい-</p>	<p>共著</p>	<p>令和4年8月</p>	<p>教育情報出版</p>	

様式第4号（教員個人に関する書類）

	<p>(学術論文)</p> <p>1. 「共に育つ保育」を追い求めた保育者のライフストーリー—幼児教育における保育実践と特別支援教育を追究する研究の往還による保育者としての成長—</p>	<p>共著</p>	<p>令和8年3月</p>	<p>日本乳幼児・保育者養成学会『乳幼児・保育者養成研究第6号』（16頁）</p>	<p>述べた。 著者：前田和代、鈴木えり子、朝木徹、紺谷遼太郎、鹿野千景、本村真弓、中村萌、菅野良美、<u>室井佑美</u>、福澤惇也、近藤真理子、須藤麻紀、新川朋子、榊原久子、馬場住子、角野雅彦</p> <p>本研究では、日本の幼児教育における特別支援教育が創世期とも言える時期から実践に携わってきた保育者のライフストーリーを手掛かりに、当時の社会的・制度的状況を照合しながら、TEMによる分析を踏まえ、職業人生を時間的な視点で捉え、保育者としての歩み続けてきた要素を考察した論文である。 著者：室井佑美、相沢和恵、浅川茂実m太田顕子、甲賀崇史、城倉登代子、杉崎雅子、中野圭子、丹羽健太郎、広瀬由紀、真鍋健、三宅美由紀、守巧、森依子</p>
	<p>(教育実践記録等)</p> <p>1 保育者養成における体験的学習による学習成果と展望—教材「七夕まつり」の教育内容と実践過程に視点をあてて—</p>	<p>単著</p>	<p>平成27年3月</p>	<p>山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第26号』（14頁）</p>	<p>本研究では、大学行事「七夕まつり」に焦点をあて、学生に対して質問紙調査を行い、<u>計画、実施のプロセス</u>についての学生自身の成長や、<u>学生同士の人間関係の育ちを分析し、その結果から学生の獲得した学習成果を考察し、論述した。</u>（pp：131～144）</p>
	<p>2 保育者養成校における保育内容「人間関係」教授法の一考察</p>	<p>共著</p>	<p>平成28年3月</p>	<p>山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第27号』（11頁）</p>	<p>本研究では、<u>保育者養成校における保育内容領域「人間関係」の科目郡を抽出し、抽出された単語の特徴を明らかにし、新幼稚園教育要領、保育所保育指針において求められる科目特性を明らかにした。</u>（pp：73～83）共同研究につき、抽出不可：<u>科目特性について執筆</u> 著者：<u>室井佑美</u>、田村美由紀</p>
	<p>3 「保育者養成における体験的学習による学習成果(2)～教材「七夕まつり」の教育内容と五領域の総合性に視点をあてて～</p>	<p>単著</p>	<p>平成28年8月</p>	<p>全国保育士養成協議会第55回研究大会研究発表論文集（1頁）</p>	<p>山村学園短期大学保育学科学生を対象に、<u>大学行事である七夕まつりに関する行事の実践について振り返り、子どもに育まれる領域を具体的な姿として文章に示し、五領域間の内容に対する相互関連性や総合性を明らかにし、学習成果を考察して論述した。</u>（CD-ROM内に掲載）</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>4 地域子育て支援イベントでの保育実践による学生の学習効果に関する一考察～はとやま子育てフェスティバル「山村にんにん忍者塾」のふりかえりレポートから～</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>山村学園短期大学紀要第 29 号 (9 頁)</p>	<p>地域による子育て支援イベントを企画運営した学生の学びの効果を振り返りから、計量テキスト分析にて結果を出し、考察をした。学生自ら企画運営することで当事者意識が芽生え、活動を通して主体的に子どもを理解しようとする事、希少性を子どもに加える機会のテーマや機会、遊びの重要性を捉えていることが明らかになった。 著者：室井佑美、鴨志田加奈 (pp:77～85)</p>
	<p>5. 保育実習 I (保育所)におけるルーブリック評価の作成に向けた基礎的研究ー実習先からの評価の観点と基準を捉えるー (その他)</p>	<p>単著</p>	<p>令和 8 年 3 月</p>	<p>山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第 34 号』 (19 頁)</p>	<p>本研究は、3 カ年分の保育実習 I (保育所)の園評価を対象に、園評価点と記載内容を分析し、実習先が評価する際の観点と基準について明らかにした。その上で本学のルーブリック評価の作成に向けた基礎的資料を提示した。</p>
	<p>1 「気になる幼児」の保育を支える幼稚園教諭の資質と地域における特別支援教育の仕組み-関西地区 K 市と A 市における聞き取り調査から-</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年 3 月</p>	<p>保育教諭養成課程研究第 3 号</p>	<p>本報告では、「<u>気になる子</u>」に対する<u>保育、及び障害のある幼児の保育</u>の実態を解明し実践上の方策を追求することを研究課題として継続した取り組みをしており、その追加調査の結果及び得られた地域の公的な仕組みに関する資料を中心に考察を行った。幼稚園教諭の資質の向上、および幼児期の特別支援教育の推進に寄与する資料を提供している。(pp:17～27) 著者：太田俊己、藤井恵美子、金谷公子、酒井幸子、浅川茂実、相沢和恵、室井佑美、広瀬由紀、前田泰弘</p>
	<p>2 「特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって」</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>武蔵野短期大学研究紀要(第 32 輯)</p>	<p>本稿では幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および教育職員免許法施行規則の改正に伴う教職課程コアカリキュラム策定の状況を鑑み、特別支援教育に配慮した保育者養成についての<u>カリキュラムのあり方</u>を検討した。筆者は「特別支援にかかわる他の専門職資格・免許～養成時カリキュラム等の相違点と共通点～」をテーマに論じた。</p>

様式第4号（教員個人に関する書類）

	<p>3「障がいのある子を含む保育のカリキュラム・マネジメントをめぐって」</p>	<p>共著</p>	<p>平成30年12月</p>	<p>関東学院大学人間環境学部・人間共生学部・栄養学部・教育学部人間環境学会紀要30号</p>	<p>(pp:47～56) 著者：太田俊己、酒井幸子、浅川茂実、橋本淳一、相沢和恵、<u>室井佑美</u>、藤井恵美子、中野圭子</p> <p>本稿では、障害等がある子どもたちを含みながら、どのようによりよい保育を展開すべきかについて、今日的に話題となっている「カリキュラム・マネジメント」の観点から検討した。筆者は<u>カリキュラムとその保育全体を、子どもたちに合わせ整備・調整・改善するための組織、運営について調査し、事例を通して明らかになったことを考察して論じた。</u>(pp:79～95) 著者：太田俊己、中澤潤、相沢和恵、<u>室井佑美</u>、広瀬由紀、中野圭子、橋本淳一</p>
	<p>4 特別な配慮を必要とする幼児を含む教育・保育の実践課題に関する実態調査</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年3月</p>	<p>令和元年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」特別な配慮を必要とする幼児を含む教育・保育の実践課題に関する実態調査報告書(103頁)</p>	<p>本報告は文部科学省委託研究事業である。全国の幼稚園等に質問紙による量的調査、実地訪問による質的調査を行った。特別な配慮を必要とする幼児の現況と幼稚園等で行われている保育・支援体制、指導の現況を示し、今後求められる特別な配慮を必要とする幼児に対する学びの場や機械の充実及び、園内での支援体制の充実と幼児教育ならではのクラス運営・園運営の特性、保護者支援への考察をした。また、実地訪問協力園における参考となる事例を14園取り上げ、実情と工夫や実際に働く教師の困難感とその解消につながる試みを考察した。(pp:76～78, 79～81) 著者：太田俊己、酒井幸子、守巧、前田泰弘、<u>室井佑美</u>他</p>
	<p>5「特別な配慮を必要とする幼児の幼保小接続期における切れ目ない支援の実現に向けた調査研究」</p>	<p>共著</p>	<p>令和6年3月</p>	<p>令和5年度文部科学省委託「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」報告書</p>	<p>本報告は文部科学省委託研究事業である。全国の幼稚園等に質問紙による量的調査、実地訪問による質的調査を行った。特別な配慮を必要とする幼児、児童の幼稚園及び小学校接続期の現状、幼稚園や小学校等で行われているカリキュラム・指導、支援体制の実態を明らかにした。また、各自治体で実施されている好事例について幼稚園、小学</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>6 「Be Amused - Use News Paper -家庭教育における新聞紙遊びの提案-OECD 生きのびる力に向けて-」</p>	<p>共著</p>	<p>令和7年3月</p>	<p>(101 頁) 文部科学省科学研究(基礎C 課題番号 21K02122) 報告書 (21 頁)</p>	<p>校、教育委員会等へ訪問調査を行い、行政システムや現場での創意工夫についてまとめた。接続期における切れ目ない支援の実現に向けた考察をした。(pp: 16~31. 80~82) 著者: 守巧、広瀬由紀、真鍋健、酒井幸子、<u>室井佑美</u>他</p> <p>本報告は、科学研究費の研究報告である。新聞紙を教材として家庭教育の中で用いる可能性について示唆した。「親子関係と信頼関係」について記述し、教材を扱う際の親子で共感することによる効果を述べた。(pp: 17) 著者: 橘和代、酒井誠、<u>室井佑美</u></p>
--	--	-----------	---------------	--	--